

JBA創薬モダリティ基盤研究会

設立趣旨：

次世代抗体医薬・核酸医薬・遺伝子細胞治療・再生医療・デジタル医療など、新たに取組みが活発化しているモダリティによる創薬を結実させるためには、多彩な関連技術やパートナーなどの創薬エコシステムが不可欠である。

本研究会では、国内モダリティ基盤技術の現況・立ち位置等の把握を行い、必要な基盤技術群の構築と充実を目指し、活動を進める。

設立：2019年 11月

会長

Renzoku Biologics株式会社CEO
久保庭 均



副会長

東京理科大学 教授 和田 猛

東京大学 教授 津本 浩平

京都大学iPS細胞研究所 教授 堀田 秋津



新治療技術WGリーダー

株式会社カネカ 北 寛士

- **ビジョン**

「日本の創薬モダリティ研究、産業の振興を図り、新たな治療法を連続的に生み出すことで、イノベーションを通じて世界に貢献する」

- **ミッション**

「創薬モダリティに軸足を置いた議論・研究を通じて、日本のバイオエコノミー戦略の推進に資する」



2019年バイオ戦略

「2030年に世界最先端のバイオエコノミー社会を実現」

創薬モダリティ基盤研究会メンバー

株式会社iXgene
iBody株式会社
Axcelead Drug Discovery Partners株式会社
アクロバイオシステムズ株式会社
旭化成セラピューティクス株式会社
味の素株式会社
アステラス製薬株式会社
池田食研株式会社
株式会社イノベーターズ・ブレイン
株式会社Epsilon Molecular Engineering
イルミナ株式会社
SBIインベストメント株式会社
エムバイオテック株式会社
ANベンチャー合同会社
イーザイ株式会社
AGC株式会社
大塚製薬株式会社
小野薬品工業株式会社
株式会社カイオム・バイオサイエンス
株式会社カネカ
協和キリン株式会社
極東製薬工業株式会社
株式会社クオントムフラワーズ&フーズ
KMバイオロジクス株式会社
神戸天然物化学株式会社
興和株式会社
株式会社Co-LABO MAKER
cytiva
株式会社サイトパスファインダー
ザルトリウス・ステディム・ジャパン株式会社
塩野義製薬株式会社
株式会社 島津製作所

株式会社シード・プランニング
C4U株式会社
株式会社新日本科学
JCRファーマ株式会社
株式会社 Gel Coat Biomaterials
株式会社GenAhead Bio
ジーンデータ 株式 会社
住友ファーマ株式会社
株式会社セルフリーサイエンス
ゼリア新薬工業株式会社
株式会社Sophia Hill Venture Partners
大正製薬株式会社
大鵬イノベーションズ合同会社
大鵬薬品工業株式会社
タカラバイオ株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺ファーマ株式会社
第一三共株式会社
株式会社ちとせ研究所
中外製薬株式会社
千代田化工建設株式会社
株式会社TMEセラピューティクス
帝人ファーマ株式会社
Delta-Fly Pharma 株式会社
株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ
東ソー株式会社
東洋紡株式会社
株式会社Trans Chromosomics
長瀬産業株式会社
日油株式会社
日本化薬株式会社
日本新薬株式会社

biomy株式会社
株式会社日本バイオデータ
VALUENEX株式会社
株式会社日立プラントサービス
株式会社PILLAR
PwCコンサルティング合同会社
富士フイルム株式会社
プラチナバイオ株式会社
株式会社プロテイン・エクスプレス
株式会社 Veritas In Silico
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
株式会社ペルセウスプロテオミクス
ポイントパスドットビズ株式会社
三井化学株式会社
三菱商事株式会社
Meiji Seikaファルマ株式会社
持田製薬株式会社
株式会社MOLCURE
ヤマサ醤油株式会社
ユーロフィン分析科学研究所株式会社
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
理科研株式会社
株式会社リガク
ルクサナバイオテック株式会社
株式会社レトリバ
レナセラピューティクス株式会社
株式会社レプリテック
Renzoku Biologics株式会社
株式会社Loqomix
ローツエライフサイエンス株式会社

東京理科大学
東京大学大学院
東京大学 医科学研究所
岐阜大学
九州大学
京都大学
慶應義塾大学
千葉工業大学
東京科学大学
東京農工大学
東海国立大学機構 名古屋大学
神戸大学
国立研究開発法人 国立循環器病研究センター
国立研究開発法人産業技術総合研究所

【公共団体】
一般財団法人化学物質評価研究機構
公益財団法人鳥取県産業振興機構
一般財団法人バイオインダストリー協会

・**会員： 111機関** (2026.7 現在)
・**企業： 94** (製薬,CRO,CDMO,ベンチャー)
・**大学・公的研究機関： 14**
・**団体・組合： 3**

JBA創薬モダリティ基盤研究会

核酸医薬

技術や情報、世の中の動きのアップデートと、それに関する議論を通じて、新規プロジェクト等の展開を探ります。

遺伝子細胞治療

超希少疾患に対するゲノム編集治療の社会実装を見据え、LNPを用いたin vivo治療をモデルケースに、研究開発・製造・事業性・N-of-1・制度設計の課題と必要な仕組みを議論する。



副会長・リーダー
東京理科大学
教授
和田 猛 先生

副会長・リーダー
京都大学
iPS細胞研究所
教授
堀田 秋津 先生



2030年
バイオエコノミー
戦略

smeWG

AMED等基盤開発事業
連携講演会

BioPhorum (IBBPOG)
連携講演会

広報、講演、啓発活動 / 提言・実践活動

学び

議論

発信

3つの柱



副会長・リーダー
東京大学
教授
津本 浩平 先生

リーダー
株式会社カネカ
北 寛士 氏

次世代抗体

創薬プロセスにおけるAI/ML/DX活用についての議論を中心に、コラボレーションが生まれていくことを期待しています。

新治療技術

WG形式での活動を終了し、提案テーマごとの活動展開を検討中。



会長
Renzoku Biologics
株式会社 CEO
久保庭 均 氏

smeWG活動(closed) (2026.07現在)

smeWG(次世代抗体) (20社 2 大学)

smeWG(核酸医薬) (11社 3大学)

smeWG(遺伝子細胞治療) (7社 1大学)

smeWG(新治療技術) (6社)

smeWG活動(closed)

subject matter expert WG

4専門家WGで活動中

- ・技術・ビジネス・規制面からの課題掘り起こし
- ・2030年に向けたバイオエコノミー戦略に合わせたビジョン・ロードマップを議論、等

smeWG活動：年初に、手をあげて、活動に参加する方式。

気楽な座談会方式。

毎年、すこしずつメンバーが入れ替わりながら、進捗している。

第8回 JBA創薬モダリティ基盤研究会 全体会

「創薬エコシステム時代におけるモダリティの融合と実装」

日 時:2026年7月22日(水) 14:30~17:00

形 式:ハイブリッド形式 MS-Teams会議(200名) & JBAオフィス(20名)

14:30 ~ 14:35 はじめに

久保庭 均 会長

14:35 ~ 15:00 2025年度smeWG活動報告

- 核酸医薬
- 次世代抗体
- 遺伝子細胞治療
- 新治療技術

和田 猛 副会長

津本 浩平 副会長

堀田 秋津 副会長

北 寛士 リーダー

15:00 ~ 15:15 2026年度活動について

事務局

- 2026年度smeWG活動について
- BioJapan2026について
- その他の活動について

15:15 ~ 16:00 セミナー 「創薬エコシステム推進事業の全体像と大学発創薬ベンチャー創出支援」

安藤 直生 氏, 上野さやか 氏 (AMED 創薬エコシステム推進事業部)

16:05 ~ 16:40 新規会員企業のショートプレゼンテーション 【各7分】

C4U株式会社、株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ、大鵬薬品工業株式会社、太陽ファルマテック株式会社

16:40 ~ 16:50 おわりに

和田 猛 副会長

2026年度 研究会活動方針

- 2026年度も smeWG活動を中心に、昨年と同様に講演会 & 議論、連携等を推進
- 設立7年が経過し、多様な参加機関の意見を取り入れた新たな取り組みを開始するための準備に着手
- smeWG(核酸医薬)
 - 2030年バイオエコノミー戦略の目標にむけ、構造解析や配列設計などの技術情報、臨床試験に向けた合成・分析・評価・DDS・レギュトリーサイエンスまでを幅広く理解・議論し、新規プロジェクトにつなげていく。次世代核酸医薬やAIによる配列設計などを議論する予定
- smeWG(次世代抗体)
 - 各創薬プロセスにおけるAI/ML/DXとそれらを繋ぐための検討、新たな抗原を対象とした抗体薬の開発を中心に、セミナー中心からWGメンバーからの話題提供と議論を中心に変更して、コラボレーションや新規プロジェクト創製につなげる
- smeWG(遺伝子細胞治療)
 - 超希少疾患に対するゲノム編集治療の社会実装を見据え、LNPを用いたin vivo治療をモデルケースに、研究開発・製造・事業性・N-of-1・制度設計の課題と必要な仕組みを議論する。
- smeWG(新治療技術) ⇒ WG形式での活動を終了し、提案テーマごとの活動展開を検討中。

2025年度活動紹介

❖4-9月

- The 7th JBA-BioPhorum Joint Seminar「Digital Plant Maturity Model」 James Colley (BioPhorum)
- 第7回 JBA創薬モダリティ基盤研究会 全体会 ～革新と融合が導く創薬モダリティの深化と進化～
- 講演会「核酸の立体構造情報を活用した核酸医薬品のデザインと開発」 近藤 次郎 氏（上智大学）
- 講演会「標的タンパク質分解誘導の最前線：AUTACとLYTACの革新」
有本 博一 氏（東北大学）、濱田 圭佑 氏（東京薬科大学）
- The 8th JBA-BioPhorum Joint Seminar「Manufacturing Execution Systems(MES) of the Future」
Ciera Clayton (BioPhorum)

❖10-12月

- BioJapan2025 主催者セミナー
「バイオ医薬品デジタルプロセス開発の進化」・「次世代薬物送達/創剤技術の最前線」、「AIによる低分子創薬の革新」
- BioJapan2025出展者プレゼンテーション：「～革新と融合が導く創薬モダリティの深化と進化～」
- 講演会「CRISPRを超えて：新規RNA誘導性システムTIGR-Tasの発見」 齋藤 諒 氏（理化学研究所）
- 講演会「核酸医薬用新規モダリティとしての非環状型人工核酸」 浅沼 浩之 氏（名古屋大学）
- 講演会「次世代抗体の創薬プロセスにおけるデジタル化の試み」久野 瑞枝 氏（Genedata AG）

❖1-3月

- 講演会「放射性リガンド療法の現実解：国産アスタチンによる実用化への道」
深瀬 浩一 氏、豊嶋 厚史 氏、渡部 直史 氏（大阪大学放射線科学基盤機構）
- 講演会「有機合成化学で切り拓く核酸・中分子医薬の未来」 和田 猛 氏（東京理科大学）、小寺 淳 氏（(株)日本触媒）
- (株)日本触媒 吹田研究所地区 中分子医薬のGMP準拠製造施設見学会
- 講演会「AI駆動型科学による次世代の抗体医薬創出」 小川 隆 氏（(株)MOLCURE、慶應義塾大学SFC研究所）
- 講演会「ゲノム編集技術の実用化を支えるデリバリー：高分子ミセルによる戦略」 内田 智士 氏（東京科学大学）

smeWG(核酸医薬)活動報告 (和田リーダー)

- ◆ AMED 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（RNA標的創薬技術開発）「革新的次世代核酸医薬（INGOT）」（2021年10月～2025年度）が終了。
BioJapan2025においてAMEDとの共催で成果報告会を実施

INGOT
INNOVATIVE
NEXT GENERATION OF
OLIGONUCLEOTIDE
THERAPEUTICS

2025年6月19日 第1回 smeWG（活動レビュー、方針策定）

- 方針：2030年バイオエコノミー戦略の目標にむけ、構造解析や**配列設計**などの技術情報、臨床試験に向けた合成・分析・評価・DDS・レギュラトリーサイエンスまでを幅広く理解し、課題とその決策策の議論を進める。 **核酸医薬のCDMO視察をWGにて提案**

2025年9月16日 講演会&第2回smeWG：

講演「核酸の立体構造情報を活用した核酸医薬品のデザインと開発」 近藤 次郎 教授（上智大学）

- ・ rRNAの結晶構造から、Bulge、Internal Loop、Hairpin Loopなどの構造モチーフを抽出・分類
- ・ Kink-turn motif を活用したトランスフォーマー核酸（翻訳阻害核酸）のデザイン
- ・ 結晶構造解析の分子模型、AMED-BINDS（創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム）紹介



2025年11月20日 講演会&第3回smeWG:

講演：「核酸医薬用新規モダリティとしての非環状型人工核酸」 浅沼 浩之 教授（名古屋大学）

- ・ PO結合でもヌクレアーゼ耐性に優れ、かつ低毒性の人工核酸の紹介
- ・ 医学部との治療薬創製に向けた非臨床データについても多く紹介いただき、議論



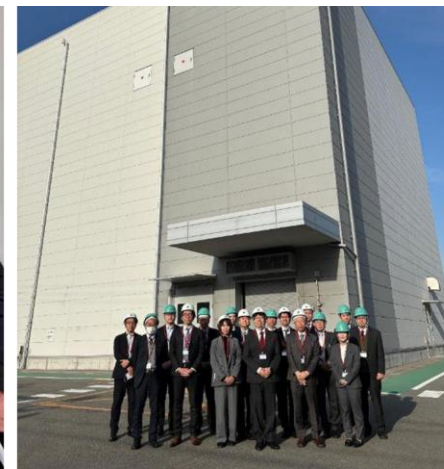
活動の続き

2026年2月4日 (株)日本触媒・吹田地区研究所訪問：

核酸・ペプチド医薬のGMP準拠の製造施設見学

講演①「核酸医薬の新展開：立体化学制御とDDS技術の融合」 和田 猛 先生（東京理科大学）

講演②「中分子医薬品の受託開発製造事業と新規DDS技術」 小寺 淳 先生（株式会社日本触媒）



2026年3月31日 第4回smeWG（まとめの会）

- 核酸医薬の技術・ビジネス・規制の動向をアップデートし議論
- 核酸医薬の国内CDMOに関する議論：受託要件、製剤化、スタートアップ対応などの課題・ミスマッチに対して、WGメンバーで共有し対応できる企業情報等を共有
- AMEDの創薬エコシステム関連プログラムのレビューと新規核酸プロジェクトの共有

smeWG(次世代抗体)活動報告(津本リーダー)

2025年6月11日 第1回smeWG キックオフ会議～、今年度方針

- ・ 各創薬初期プロセスにおけるAI/機械学習/DXとそれらを繋ぐための検討
- ・ ADCなど日本の強みを生かした競争力強化の議論
- ・ 具体的連携機会創出の可能性等について検討

2025年8月21日 第2回smeWG :

抗体創薬におけるAI/ML/DXに関する議論 ～創薬フローに沿って各項目の状況を議論

- ・ 創薬プロセスにAI/MLを活用。親和性向上・免疫原性予測は精度が向上。凝集性などのDevelopability予測もFDAが2025/04に示した New Approach Methodologies (NAMs) のロードマップ概説
- ・ モノクローナル抗体医薬では3年以内に動物実験の原則廃止～ *in silico, in vitro, ex vivo*試験の活用と発展

2025年11月20日 講演会&第3回smeWG

講演「次世代抗体の創薬プロセスにおけるデジタル化の試み」久野瑞枝先生（Genedata社）

- ・ 抗体創薬の探索～プロセス開発に至る全要素にデジタル化が浸透
- ・ 今後はAIの活用、標準化に向けた取り組みを進めていく必要性
- ・ 一方で、スタートアップ企業などでの導入ハードルの高さが指摘（コスト、最小導入単位など）



活動の続き

2026年2月16日 講演会&第4回smeWG (ハイブリッド開催)

講演「AI駆動型科学による次世代の抗体医薬創出」小川隆 氏 (MOLCURE社)

- WG討論において、今まで難しいと思っていたことがAIの技術が大幅に改善されていることを確認
- キーメッセージ：AIが「できること」、「できないこと」を明確にシェアしておくことが重要
- 各創薬初期プロセスのAI/ML結果を繋げていく（複数の課題の同時解決）のは今後の課題



2026年3月25日 第5回smeWG まとめ会

- 次世代抗体のビジネス・技術・規制に関する動向をアップデートし議論
- AMEDを中心とした国プロジェクトのレビュー
- 次世代抗体医薬における中国のグローバルな進展と今後の日本の対応について意見交換

smeWG（遺伝子細胞治療）の活動報告（堀田リーダー）

2025年6月25日 第1回smeWG

- ・過去の活動の振り返り、2025年度活動方針の検討

2025年8月7日 第2回smeWG

- ・「国産ゲノム編集技術の実用化」に向けた議論をすることに決定

2025年11月11日 講演会&第3回smeWG（ハイブリッド開催）

「CRISPRを超えて：新規RNA誘導性システムTIGR-Tasの発見」

齋藤 諒 氏（国立研究開発法人理化学研究所 開拓研究所 理研ECL研究チームリーダー）

- ・Cas9を超える技術の探索は既に非常に活発に行われている。
- ・日本独自技術は特徴があり、応用に応じた使い分けが重要。
- ・最大の課題は標的組織への安全かつ効率的な送達。



2026年2月18日 講演会&第4回smeWG（ハイブリッド開催）

「ゲノム編集技術の実用化を支えるデリバリー：高分子ミセルによる戦略」

内田 智士 氏（東京科学大学 難治疾患研究所 先端ナノ医工学分野 教授）

- ・RNAの分解保護とターゲティングの両立が鍵。
- ・LNPとの比較
- ・投与形態によっては、ポリマーベースは脂質系よりも高い安定性を示す場合がある（例：ネブライザー）



smeWG（新治療技術）の活動報告（北リーダー）

2025年6月10日 第1回smeWG（オンライン開催）

- ・新たな活動の目線合わせ
- ・2025年度活動方針の検討

「創薬における次世代モダリティや治療技術となり得るシーズを発掘し、技術・課題について学び、その社会実装の可能性についてアカデミアと企業が共に議論する」

2025年9月17日 講演会&第2回smeWG（ハイブリッド開催）

講演会「標的タンパク質分解誘導の最前線：AUTACとLYTACの革新」

「AUTACによる選択的オートファジー誘導：基盤技術と創薬応用の可能性」

有本 博一 氏（東北大学大学院生命科学研究科 教授）

「細胞外・膜タンパク質の分解を可能にするLYTAC (Lysosome-Targeting Chimera) の開発」

濱田 圭佑 氏（東京薬科大学薬学部 助教）

- ・AUTAC/LYTACの実用化に向けた課題整理



活動の続き

2026年1月26日 講演会（オンライン開催）
「放射性リガンド療法の現実解：国産アスタチンによる実用化への道」

「放射性リガンド療法の全体像」

深瀬 浩一 氏（大阪大学放射線科学基盤機構 特任教授）

「アルファ放射体製造の動き」

豊嶋 厚史 氏（大阪大学放射線科学基盤機構 教授）

「アスタチンを用いた標的アルファ線治療の医師主導治験」

渡部 直史 氏（大阪大学放射線科学基盤機構 特任准教授）



❖ BioJapan2026 創薬モダリティ基盤研究会関連

- 主催者セミナー 「AIによる低分子創薬の革新」
- 主催者セミナー 「次世代薬物送達/創剤技術の最前線」
- 主催者セミナー 「バイオ医薬品デジタルプロセス開発の進化」
- 出展者プレゼンテーション 研究会メンバー企業によるプレゼンテーション
- スポンサーセミナー 「AMED RNA標的創薬技術開発領域の成果報告会」 (AMED・JBA 共催)

❖ 第8回 JBA-BioPhorum セミナー 2025年9月19日

- 「Manufacturing Execution Systems of the Future」 Ciera Clayton (BioPhorum)

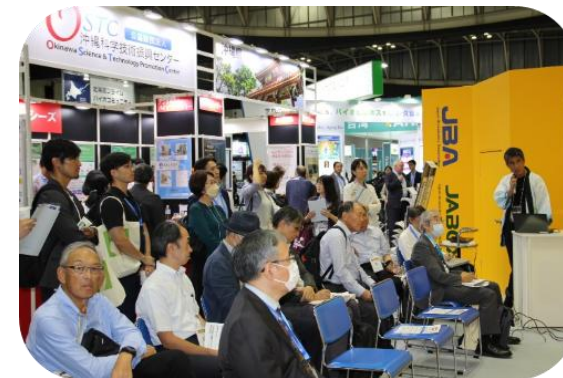
❖ 第9回 JBA-BioPhorum セミナー 2026年4月24日

- 「Driving consensus in ATMP impurity management: insights from BioPhorum」
Simon Walker, Kathleen O. Hagan and Daniel Lister (Global Change Facilitators)

❖ バイオサイエンスとインダストリー(B&I) 2026 Vol.84 No.1

(国研)日本医療研究開発機構「RNA標的創薬技術開発領域」の成果報告会

❖ バイオサイエンスとインダストリー(B&I) 2026 Vol.84 No.4 (株)日本触媒・中分子医薬GMP製造施設 見学会 & 講演会報告



JBA NEWS

(国研)日本医療研究開発機構 「RNA 標的創薬技術開発領域」の成果報告会

はじめに

2021年度から開始された(国研)日本医療研究開発機構(AMED)「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業「RNA標的創薬技術開発領域」」プロジェクトが2025年度で最終年度を迎えた。BioJapan2025ではAMEDおよびJBAの共催にて、同領域の研究成果報告会が概括プロジェクトリーダーの東京理科大学 和田猛氏(写真1)をコーディネーターとして、開催されるとともに、日本発の核酸医薬創薬に向けて議論が交わされた。

1. 革新的次世代核酸医薬の開発

和田 猛氏(東京理科大学薬学部 教授)

製造・PB核酸・分析の3グループからなる産学連携コンソーシアム(5大学7企業)による革新的次世代核酸医薬の技術開発成果が報告された。本プロジェクトの中核をなすのは、リン原子にホスホリル基が結合したポリヌクレオチド(PB)核酸である。PB核酸は従来のヌクレオチドオースト(PN)核酸に比べ毒性が低く、高いヌクレオチド耐性と細胞膜透過性を有する。さらにホスホリル基の導入により、細胞内での代謝安定性を向上させ、18量体の自動相合成を達成した。千葉工業大学 坂本泰一氏との共同研究により、NMRを用いた立体化学決定法も開発された。また、無保護ヌ

クレオシドから1段階でモノマーを合成する革新的合成手法や、モデルフォリノ(PMO)核酸の効率的な固相合成法やリン原子立体制御技術も開発され、前ジストロフィー治療薬として実用化されているPMOの新薬誘導体創出につなげることができた。

2. 核酸医薬品の製造・精製・分析基盤技術の開発

小比賀 聡氏(大阪大学大学院薬学研究科 教授)
製造・精製・分析・不純物安全性評価を統合的に検討した成果が報告された。核酸医薬は低分子医薬に比べ分子量が大きく、合成サイクル数が多いため精製機会が阻まれる。20量体の合成には約100反応が必要であり、各反応の効率化が重要となる。

本プロジェクトでは、原料であるアミダイトの結晶化による高純度化、脂溶性の高いキャッピング試薬による短鎖不純物の分離向上、PS結合合成時のPO(ホスホジエステル)結合置換体混入の大幅削減などを達成した。また、連続クロマトグラフィーによる効率的精製法を確立した。分析技術では、イオンモビリティ質量分析法による同一分子量不純物の分離、超臨流体制クロマトグラフィーによる脱アミノ体不純物の分離、非変性条件下でイオン交換クロマトグラフィーによるssRNA二本鎖の直接分析などを実現した。

特筆すべき成果として、事業関連機により名古屋大学 神田光臣氏との共同研究から、アンチセンス核酸のGMP製造を実施し、2025年度よりPhase I試験を開始した。また、(国研)国立医薬品食品衛生研究所 井上貴雄氏らが中心となり、N-1体などの短鎖不純物が慢性外傷伝子の発現を抑制することを実証し、品質管理の重要性を示した。これらの知見は日本製薬工業協会核酸医薬品質評価タスクフォースと協力して技術ガイダンスとして取りまとめられる予定である。



写真1 コーディネーター 和田教授



出展者プレゼンテーション
革新と融合が導く創薬モダリティの深化と進化 2
JBA創薬モダリティ基盤研究会企画



会 期：2025年10月9日（木）11:30-12:30
場 所：パシフィコ横浜 Aホール A-42 JBAブース スペシャルラウンジ

多様なモダリティと革新的技術、さらに技術融合による先鋭的な挑戦を紹介。創薬モダリティの深化と進化を目指すスタートアップ企業等の最前線の取り組みにご注目ください。

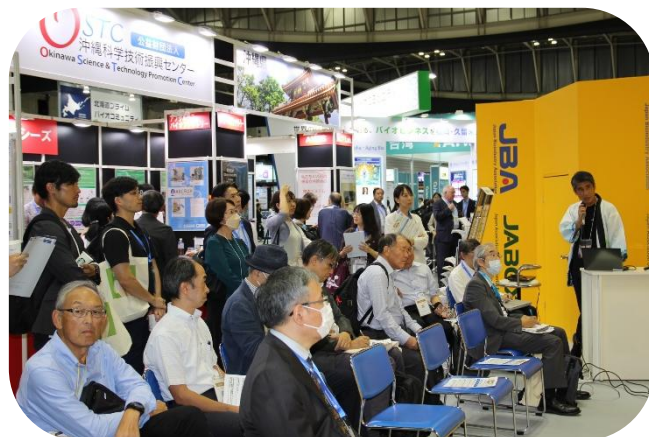


11:30～11:45
「オートメーション導入による価値創出」
田中 健之（ローツェライフサイエンス株式会社 営業部）

11:45～12:00
「創薬モダリティのヘテロ二本鎖核酸（HDO）」
野澤 徹（レナセラピューティクス株式会社 事業開発本部長）

12:00～12:15
「次世代抗体創薬におけるVHH抗体の活用」
正木 秀和（株式会社Epsilon Molecular Engineering 事業開発部長）

12:15～12:30
「マイコプラズマ糖脂質研究を基盤とした新規モダリティ：グローバル『前臨床～臨床試験』戦略」
松田 和洋（エムバイオテック株式会社 代表取締役社長/マイコプラズマ感染症研究センター センター長）



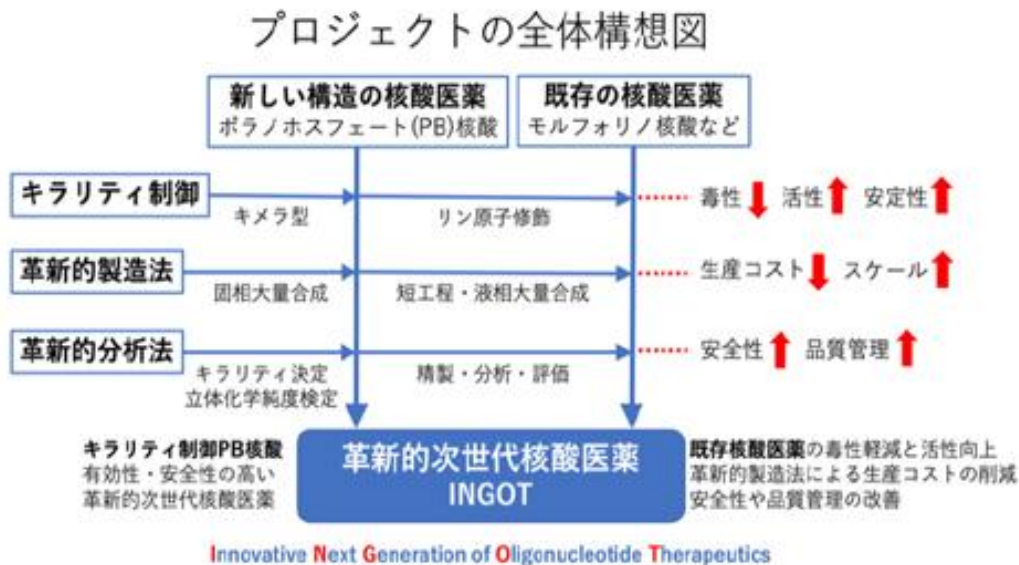
※概要は裏面をご覧ください。



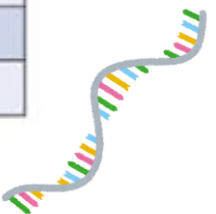
smeWG(核酸医薬)活動 和田リーダー

AMED令和5年度 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術
開発事業(RNA標的創薬技術開発) INGOT PJ(2021年度～2025年度)

INGOT
INNOVATIVE
NEXT GENERATION OF
OLIGONUCLEOTIDE
THERAPEUTICS



	PO-ASO	PS-ASO	PB-ASO
化学構造式			
①標的RNAとの親和性	++	+	+
②RNase H誘導活性	++	+	+
③分解酵素耐性	-	+	++
④毒性	-	++	-
⑤血中滞留性	-	++	未解明



・参加資格：趣旨に賛同するJBA法人会員、JBA個人会員(アカデミアのみ)

・入会のお申し込み：JBA創薬モダリティ基盤研究会事務局 北嶋、中戸川

e-mail : modalities@jba.or.jp、電話：03-6665-7950

研究会活動

創薬モダリティ基盤研究会

次世代抗体医薬・核酸医薬・遺伝子細胞治療・再生医療・デジタル医療など、新たに取り組みが活発化しているモダリティによる創薬を結実させるためには、多彩な関連技術やパートナーなどの創薬エコシステムが不可欠です。本研究会は、国内モダリティ基盤技術の現況・立ち位置等の把握、必要な基盤技術群の構築と充実を目指し、2019年11月に発足し、4つのsmeWG活動を中心に進めています。



活動紹介

> 政策提言・JABEX

> バイオコミュニティ・GTB

> オープンイノベーション

> 研究会・委員会活動

> バイオインダストリー大賞・奨励賞

> バイオリーダーズ研修

> 生物多様性条約（CBD）と遺伝資源アクセスと利益配分

> バイオ関連法制対応

JBA創薬モダリティ基盤研究会HP
(問い合わせ先も記載)

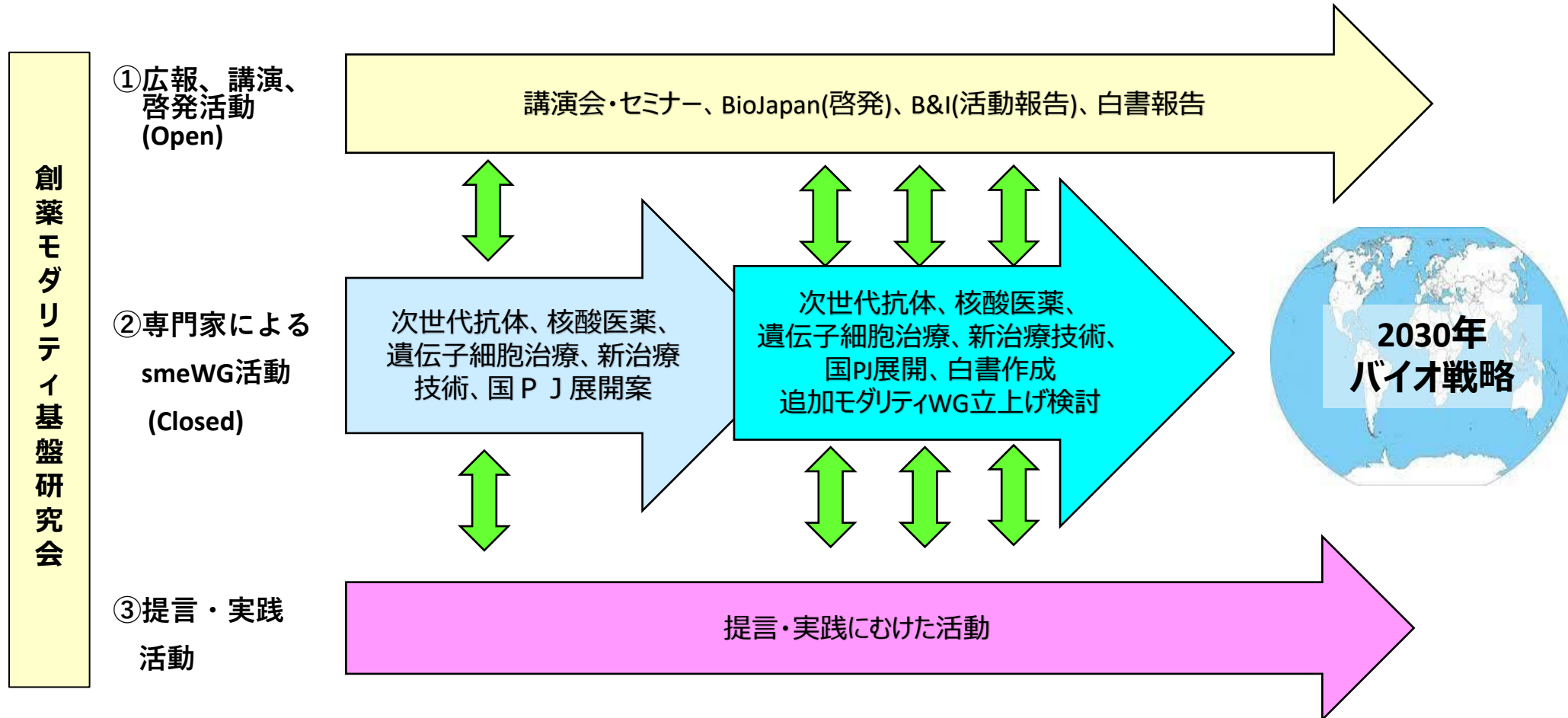


JBA創薬



研究会活動方針

3つの柱<学び・議論・発信>



研究会活動の緩やかな連携体制

